

2021年12月10日

各 位

会 社 名 パ ン チ 工 業 株 式 会 社
住 所 東 京 都 品 川 区 南 大 井 六 丁 目 22 番 7 号
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 執 行 役 員 CEO 森 久 保 哲 司
(コード番号：6165 東証第一部)
問 合 せ 先 経 営 管 理 部 広 報 課 長 松 田 隼 人
TEL. 03-5753-3130

新市場区分「プライム市場」の選択申請及び上場維持基準の適合に向けた計画書

当社は、2022年4月に予定される株式会社東京証券取引所の市場区分の見直しに関して、本日開催の取締役会において、プライム市場を選択することを決議し、申請書を提出いたしました。当社は、移行基準日時点（2021年6月30日）において、当該市場の上場維持基準を充たしていないことから、下記のとおり、新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書を作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間

当社の移行基準日時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況は、以下のとおりとなっており、流通株式時価総額については基準を充たしておりません。当社は、流通株式時価総額に関して、2025年3月期末までに上場維持基準を充たすために各種取組みを進めてまいります。

	株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式 時価総額 (億円)	流通株式比率 (%)	1日平均 売買代金 (万円)
当社の状況 (移行基準日時点)	4,757	144,460	87.8	65.3	4,088
上場維持基準	800	20,000	100	35.0	2,000
計画書に記載の項目	—	—	○	—	—

※当社の適合状況は、株式会社東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組の基本方針、課題及び取組内容

プライム市場の上場維持基準である流通株式時価総額を充たすための各種取組みの基本方針、課題及び取組内容については、添付の『新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書』に記載のとおりです。

以 上

新市場区分の上場維持基準の 適合に向けた計画書

2021年12月10日



パンチ工業株式会社

(証券コード: 6165 東証第一部)

1. 当社の上場維持基準の適合状況

移行基準日(2021年6月30日)時点における、当社のプライム市場の上場維持基準への適合状況は以下の通りであり、流通株式時価総額100億円のみを充足できていない状況です

	プライム市場上場維持基準	当社の状況 (2021年6月30日)	適合状況
流通株式時価総額 ¹	100億円以上	87.8億円	×
株主数	800人以上	4,757人	◎
流通株式数	20,000単位以上	144,460単位	◎
売買代金(1日平均)	2,000万円以上	4,088万円	◎
流通株式比率	35%以上	65.3%	◎

**企業価値の向上により流通株式時価総額基準(流通株式数×株価)
100億円の達成・更なる向上を目指します**

1. 流通株式数に、2021年4月1日から6月30日までの3か月間の東京証券取引所の売買立会における日々の最終価格の平均値を乗じて算出



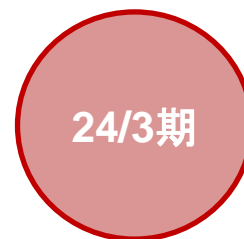
2. プライム市場基準の適合に向けたスケジュール

現在の中期経営計画であるバリュークリエーション2020 Plus(～2022/3期)における施策を着実に実行し、数値目標を達成するとともに次期中期経営計画で更なる成長を目指します

バリュークリエーション2020 Plus
(2021/3期～2022/3期)



バリュークリエーション2024
(2023/3期～2025/3期)



数値目標の確実な達成と
重要経営課題への対応

更なる成長に向けた
投資加速と企業価値向上

2022年3月末頃に公表予定の次期中期経営計画の最終年度である
2025年3月末を計画期間とし、企業価値向上に努めてまいります

3. プライム市場基準の適合に向けた課題・基本方針

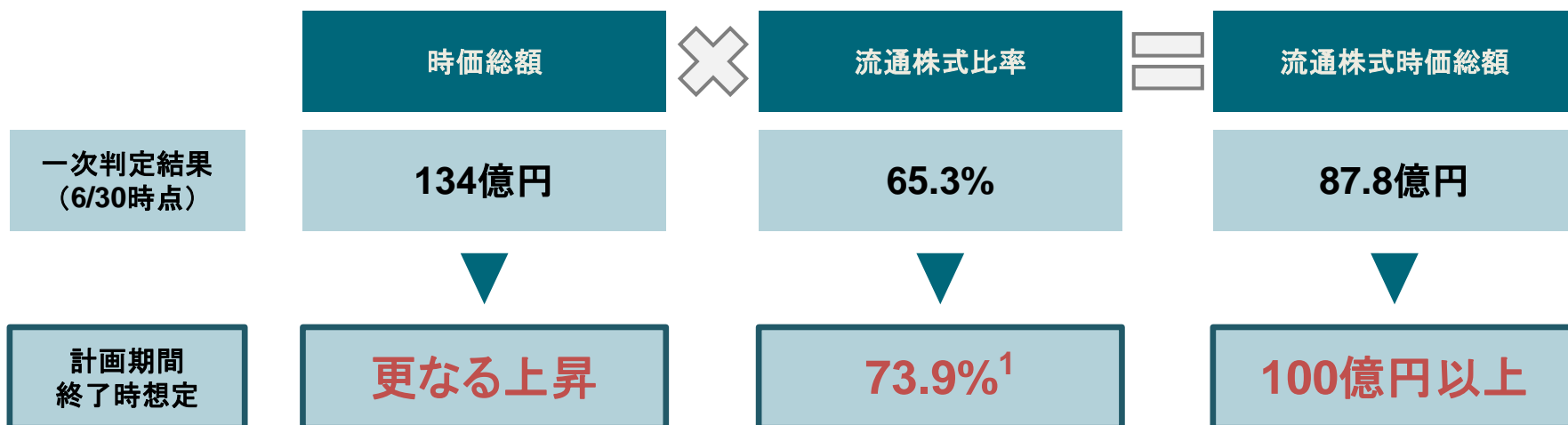
企業価値向上のための施策を通じた株価・時価総額上昇を通じ、プライム市場の上場維持基準である流通株式時価総額100億円の達成・及び更なる上昇を目指します

流通株式時価総額上昇に向けた課題

企業価値向上施策を通じた株価上昇
現中期経営期間(VC2020Plus)においては
設備投資を縮小し財務基盤を強化

課題解決に向けた基本方針

成長に向けた設備投資水準の回復
必要な資金の一部を
新株予約権型ファイナンスで調達



1. 第三者割当による行使価額修正条項付第4回新株予約権の発行にて2,500,000株の新株を発行し、その全てが流通株式に該当したと仮定

4. 中期経営計画－VC2020Plus－の取り組み状況

バリュークリエーション2020Plusにおいては数値目標を着実に達成し、重要経営課題に対する取り組みも強化することで次期中期経営計画に繋げていくことが可能

VC2020Plusの数値目標と今期予想値

	VC2020Plus 目標値	22/3期 予想値	状況
売上高	361億円 以上	384億円	達成 見込み
営業利益	18億円 以上	28.0億円	達成 見込み
当期純利益	11.3億円	16.3億円	達成 見込み
ROE	9%	12.4%	達成 見込み

VC2020Plusにおける重要経営課題と取り組み状況

販売5極体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東南アジア:市場強化 ■ 欧州:販売体制確立 ■ 米州:取引先拡大
お客様目線を重視した 営業力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本:顧客ニーズによる商品開発・受発注システムの改善 ■ 中国:新分野顧客とのパートナーシップ
グローバル生産体制の 最適化とR&D強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ カタログ品&特注品の国内外生産体制最適化 ■ 新規分野・新市場の開拓 ■ 業務提携やM&Aも視野 ■ 加工材料の加工技術アップ
働き方改革と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ■ 女性活躍推進 ■ ワークライフバランス推進 ■ グローバル人材の育成

5. 今後の成長戦略のポイント

当社グループで働く全員が、常にSDGsやESGを意識した活動を行い、事業や業務を通じてステークホルダーの発展を常に意識した行動をとる

目指すのは、
お客様の第一候補

- お客様の求める「品質」「価格」「納期」を提供し続ける
- お客様へ「機能」「性能」「品質」の優れた価値を提供し続ける
- お客様の常に変化するニーズに応えるべく、技術を磨き続ける

DX推進

- デジタル化推進による働き方改革
- ITツール活用による抜本的な業務改革
- 最新ITツール導入による顧客サービス拡充(新WEB受注システム等)

新技術開発推進

- 新技術・新製品の持続的な開発を行う
- 自動化・省力化設備の導入【自社ノウハウを活用したFA(特注品)事業強化】
- 当社グループの更なる発展を目的に、新事業の開拓を継続的に推し進める

SDGsやESGを
意識した企業活動

- 株主・投資家との対話を重視し、資本効率を高めることにより、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現すべく、ガバナンスの強化を図る
- 当社グループで働く全社員の幸福を追求し、情熱、活力ある職場を創る
- 企業価値を向上させるために、持続的な人財育成を実施する

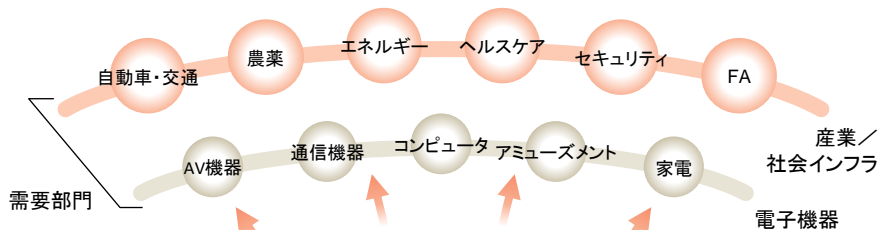


パンチ工業株式会社

高付加価値の金型用部品需要の高まり

IoT社会の広がりによって顧客となる事業領域がさらに拡大。各事業領域において精密部品の需要が高まることで、金型用部品における高度な精密加工技術の需要は高まる

IoT社会における需要の広がり

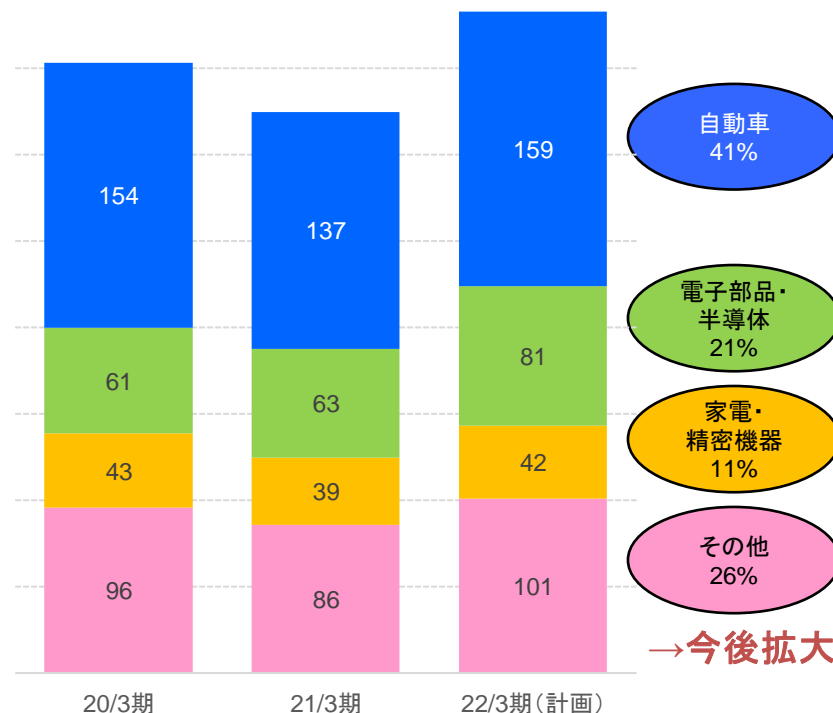


世界需要	センサの種類	日系企業
2025年 1,522億個 / 9.0兆円	<ul style="list-style-type: none"> 光度センサ 温度センサ 圧力センサ 慣性力センサ 位置センサ 磁界センサ 音・超音波センサ 化学・バイオセンサ その他 	2025年 674億個 / 3.8兆円
2020年 913億個 / 5.2兆円	<p>世界の金額 3倍に</p> <p>IoT化 クラウド化 ビッグデータ処理</p>	2020年 414億個 / 2.3兆円
2014年 532億個 / 2.8兆円	<p>スマートセンサ MEMS センサネットワーク</p>	2014年 251億個 / 1.3兆円

出所: JEITA 注目分野に関する動向調査2015

業種別売上高推移(億円)

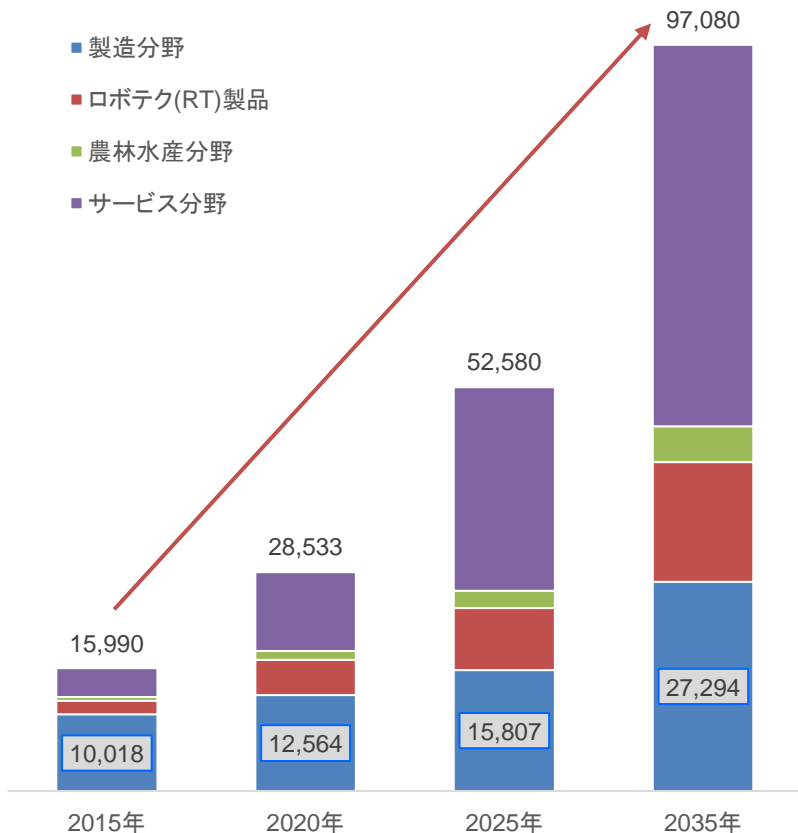
売上高構成比



国内ロボット産業の動向

製造業を始めとした現市場の形成分野の成長に加え、サービス分野等の新分野への普及により2035年に9.7兆円まで市場拡大し得るなかで、自社ノウハウを活用しFA(特注品)事業を強化

国内ロボット産業の市場規模推移(15~35年度:億円)



各分野ごとの将来市場予測

- 調査対象とするロボットを、大分類・中分類・小分類の階層構造として体系化し、各分類ごとに将来市場(国内生産量)を推計
- ロボット産業の将来市場は、2035年に9.7兆円まで成長すると予測
- 各分野ごとの予測内訳
 - 製造分野 : 2.7兆円
 - ロボテック製品分野 : 1.5兆円
 - 農林水産分野 : 0.5兆円
 - サービス分野 : 4.9兆円

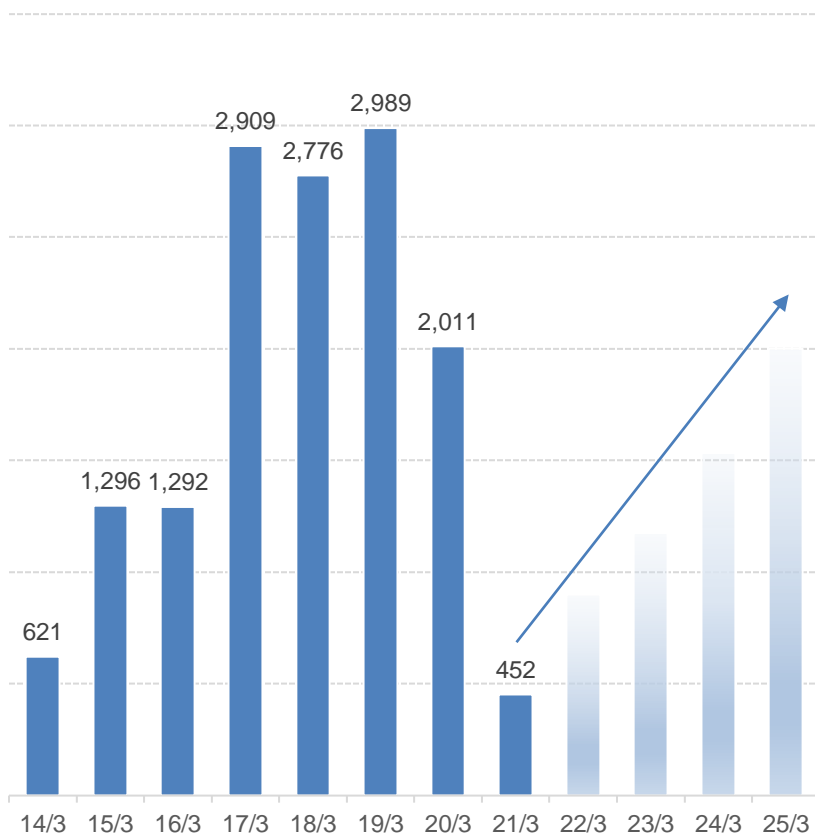
出所: 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構



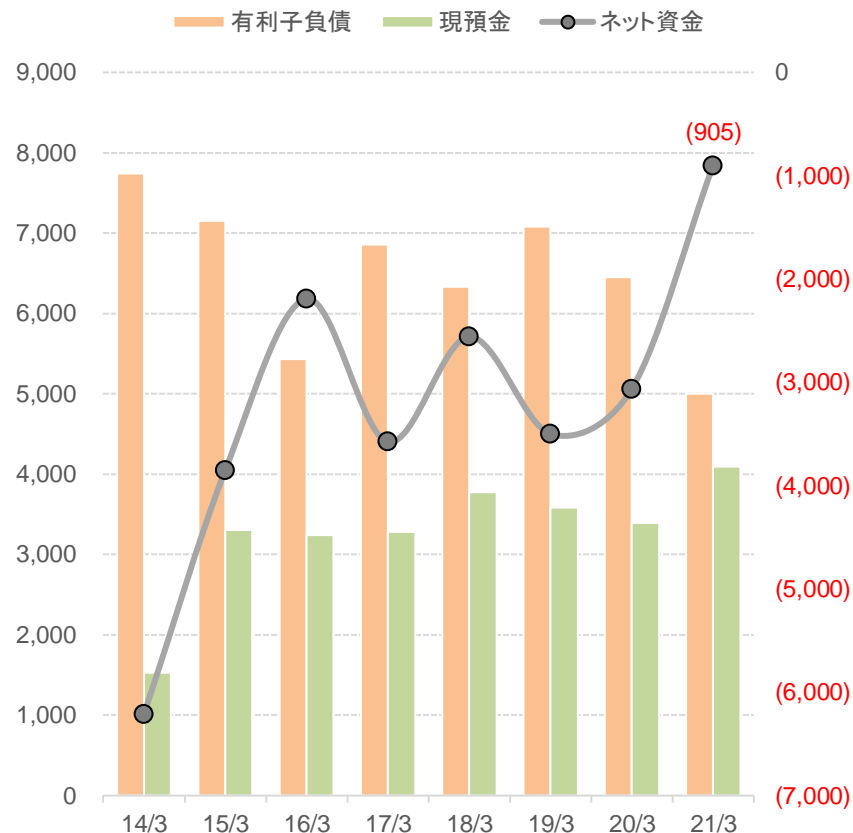
成長に向けた設備投資の強化と強固な財務基盤の維持

更なる成長に向け設備投資は強化。コロナ禍において有利子負債の圧縮含め財務基盤の強化に努めており、成長投資を支えるための強固な財務基盤については現状水準を維持

設備投資額推移(百万円)



有利子負債・手元流動性(左:百万円)とネット資金(右:百万円)



企業価値向上に向けた資金調達

中期的な視野に立った成長戦略実現のための資金を調達するために、現状の財務基盤を維持・強化しつつ企業価値向上に資するエクイティ性の資金調達を実施

目的

- 世界的なIoT社会の広がりや、DXの加速に伴い、精密金型の需要は更に増加することが見込まれ、それに応じて、当社グループが製造する金型用部品、特に当社の得意とする高度な精密加工技術を施した部品への需要はより大きくなると予想しております。
- このような事業環境の中、グループ全体の更なる事業拡大を通じた成長を実現していくために、コロナ禍において一時的に抑制していた国内外の生産拠点における設備投資の他、デジタル化や新技術開発推進への投資も積極的に実施し、中期的な視野に立った成長戦略の実現を目指します。
- また、今般のファイナンスにより調達した資金により上記成長戦略投資を実施し、事業拡大と企業価値向上を遂げることで、プライム市場の上場維持基準を充たすことも目指していきたいと考えております。

資金使途

具体的な資金使途	金額(百万円)	支出予定時期
国内外の拠点における生産体制の整備	845	2022年1月～2024年12月
DX推進	300	2022年1月～2024年12月
新製品・新技術開発推進のための投資	200	2022年1月～2024年12月

※ 上記の各金額は、2021年12月9日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値等に基づき、全ての新株予約権が行使されると仮定して算定された見込額です。今後の株価動向や新株予約権の行使状況によって実際の調達金額は増加又は減少する可能性があり、それに伴って上記の各資金使途への充当金額も増加又は減少する可能性があります。



企業価値向上に向けた取り組み

ESGやSDGsは経営上の重要な課題。SDGs項目のうち、既にグループ会社で実施しているものも含め、当社事業と特に関わりの深い7項目について、グループを挙げて取り組みを実施

Environment



● 気候変動への対応

- ・ エネルギー使用量管理によるCO2排出量把握と削減
- ・ 省エネ設備・エコカー活用による省エネ対策
- ・ マレーシア工場におけるソーラーパネル設置



● 環境負荷低減

- ・ 環境化学物質管理
- ・ 紙書類の電子化によるペーパーレス化推進

Governance



● コーポレート・ガバナンスの強化

- ・ 監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行（2021年6月23日定時株主総会）

● 取締役会議長への社外取締役の就任

- ・ 2016年より、社外取締役が取締役会議長に就任

Social



● 従業員エンゲージメント、ワークライフバランス

- ・ 風土改革委員会
- ・ イクボス運動の推進

● 労働環境・安全衛生

- ・ 多様な働き方（テレワーク等）の推進
- ・ 産・育休中の社員によるWeb交流会「パンチ・ファミリーサロン」開催
- ・ グループ一斉禁煙デー（毎年5月31日）



● 人材育成

- ・ 技能コンテストで社員の技術力向上
- ・ キャリアプランの自己申告制度「マイジョブプラン」導入

● ダイバーシティ

- ・ 女性活躍推進
- ・ 男性育児休暇取得推進
- ・ 障がい者雇用

● 社会貢献

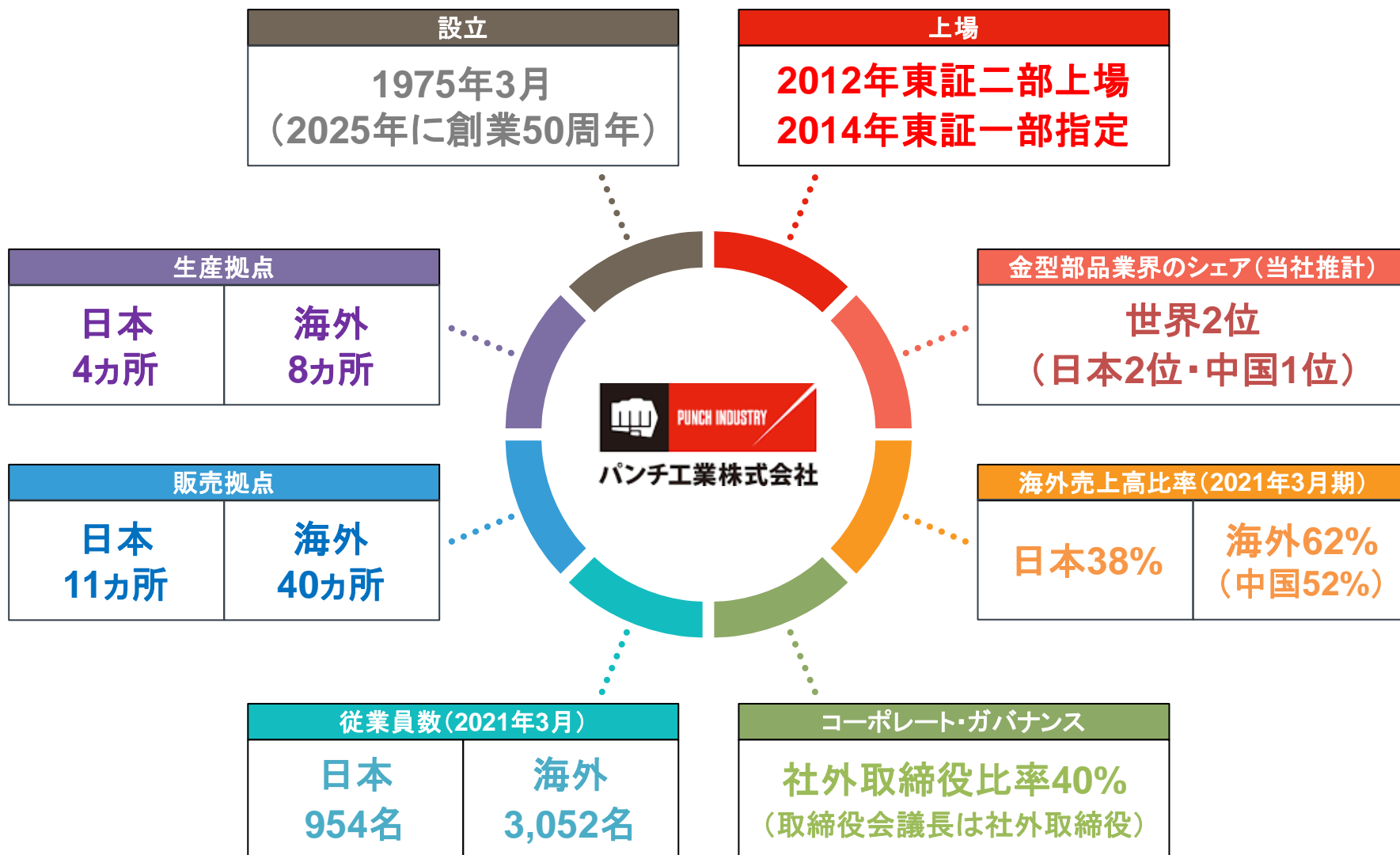
- ・ 高校・専門学校等インターンシップ受入れ
- ・ 地域イベントへのボランティア参加



参考資料



ひと目でわかるパンチグループ



マネジメント体制

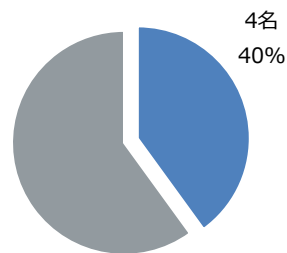
代表取締役社長プロフィール

氏名及び生年月日	職歴
 森久保 哲司 (1977年1月22日)	2003年5月 当社入社
	2005年2月 盤起工業(大連)有限公司
	2012年11月 バリュー・クリエーション推進室長
	2013年4月 経営企画室長
	2015年4月 PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.
	2016年5月 執行役員
	2018年6月 取締役 上席執行役員 経営戦略統括
	2019年4月 最高戦略責任者 グループ事業統括
	2019年6月 代表取締役(現任) 副社長執行役員
	2019年11月 社長執行役員 最高経営責任者 グループ経営統括(現任)

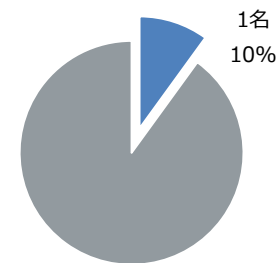
取締役体制

取締役	代表取締役社長執行役員 最高経営責任者(CEO)	森久保 哲司
	取締役常務執行役員 最高執行責任者(COO/営業)	真田 保弘
	取締役上席執行役員 最高財務責任者(CFO)	村田 隆夫
	取締役上席執行役員 最高執行責任者(COO/製造)	高梨 晃
	取締役	杉田 進
	社外取締役 取締役会議長	三橋 友紀子
取締役 (監査等委員)	社外取締役	高辻 成彦
	取締役(監査等委員)	河野 稔
	社外取締役(監査等委員)	松江 頼篤
	社外取締役(監査等委員)	鈴木 智雄

社外取締役比率



女性取締役比率



沿革



パンチグループの強みとネットワーク

日々の生活に不可欠な自動車、電子機器、家電製品を、速く、均一に、大量に作るために必要不可欠なのが金型です。パンチグループは、その金型を構成する金型用部品を作っています

パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供

カタログ品
汎用性の高い標準製品を
豊富にラインアップ



タイムリーで
的確な
ソリューション

特注品
カスタムニーズにも
柔軟に対応



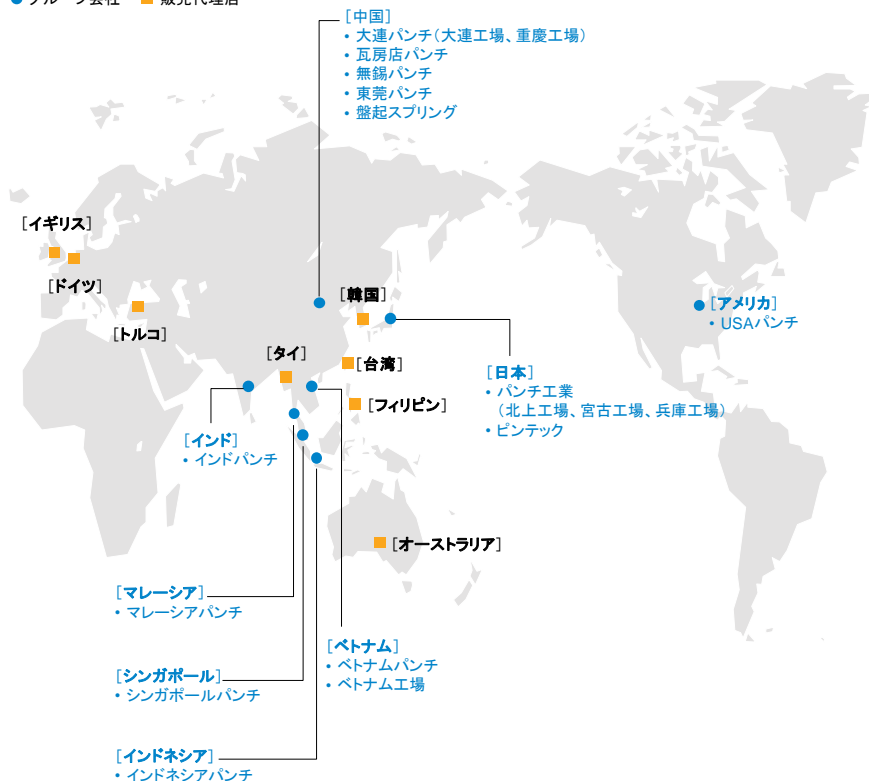
**一貫通貫の
生産体制**
2,000台の設備で
幅広い対応力

**お客様密着型の
営業体制**
きめ細かな
対応・提案力

高い技術力
創業以来培った
ノウハウと
たゆまぬ研究開発

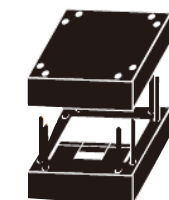
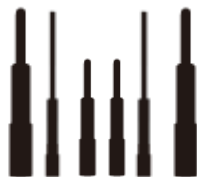
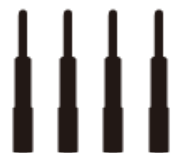
パンチグループのネットワーク

● グループ会社 ■ 販売代理店



事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売
私たちが身近に接する製品を縁の下で支えています



たとえばこんな部品



金型

構成部品を速く、
均一に、大量につ
くるための金属で
できた「型」

構成部品

製品を構成する
ために必要となる
パーツ

製品

自動車や家電など
私たちが身近で使
うさまざまな製品

パンチ工業の主要製品

プラスチック金型、プレス金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売をしております

プラスチック金型用部品

プラスチック金型は、スマートフォンやデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられています。加熱溶解したプラスチック樹脂を、射出成形機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られます。パンチグループでは、この金型を構成する部品を製造・販売しています。



主要な製品

エジェクタピン

射出成形された成形品を金型そのものから離し、突き出すための部品（押し出しピン）です。



主要な製品

コアピン

製品部を成形するのに使用し、コアピンの形が転写されます。製品部の貫通させた部分が成形したり、製品部に彫刻をします。

プレス金型用部品

プレス機（上下運動する機械）に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料となる金属の鋼板を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品ができて上がります。パンチグループでは、この金型を構成する部品を製造・販売しています。



主要な製品

パンチ

プレス金型に組込まれる代表的な部品で、金属板に穴をあけたり、形状を転写するための部品です。当社の社名はこのパンチに由来しています。



主要な製品

ホルダーガイドポスト関連

上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品です。





【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 経営管理部 広報課 電話:03-5753-3130 e-mail:info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。